

二酸化窒素の測定結果（平成30年度）

大気中の窒素酸化物は、物の燃焼に伴い空気中の窒素が酸化されてできるものと、燃料中に含まれている窒素分が酸化されてできるものがあります。発生源としては、固定発生源である工場・事業場のばい煙発生施設及び移動発生源である自動車などがあります。

平成30年度に、二酸化窒素について19測定局（自動車排出ガス測定局4局を含む。）で測定した結果は下表のとおりであり、平成29年度と比較すると、横ばい傾向にあります。

年平均値は、土岐自動車排出ガス測定局の0.015ppmが最も高く、一般環境測定局においては、岐阜南部測定局の0.010ppmが最も高い状況にありました。

なお、長期的評価に基づく環境基準はすべての測定局で達成しました。

地域	測定局名	有効測定日数 (日)	測定時間 (時間)	年平均値 (ppm)	日平均値が0.06ppmを超えた日数とその割合		日平均値が0.04ppm以上0.06ppm以下の日数とその割合		1時間値の最高値 (ppm)	日平均値の年間98%値 (ppm)	長期的評価の適否 適○否×	平成29年度	
					日	%	日	%				年平均値 (ppm)	長期的評価の適否
岐阜	岐阜中央	365	8637	0.008	0	0.0	0	0.000	0.049	0.015	○	0.008	○
	岐阜南部	365	8639	0.010	0	0.0	0	0.000	0.050	0.021	○	0.010	○
	岐阜北部	354	8426	0.005	0	0.0	0	0.000	0.031	0.012	○	0.006	○
	各務原	320	7676	0.006	0	0.0	0	0.000	0.032	0.014	○	0.007	○
	本巣	363	8670	0.006	0	0.0	0	0.000	0.057	0.014	○	0.008	○
	平均			0.007									0.008
西濃・羽島	羽島	356	8556	0.008	0	0.0	0	0.000	0.053	0.017	○	0.009	○
	大垣中央	363	8690	0.008	0	0.0	0	0.000	0.037	0.018	○	0.010	○
	大垣南部	361	8662	0.008	0	0.0	0	0.000	0.047	0.017	○	0.009	○
	平均			0.008								0.009	
可茂	美濃加茂	357	8552	0.006	0	0.0	0	0.000	0.039	0.012	○	0.006	○
中濃	関	364	8695	0.006	0	0.0	0	0.000	0.028	0.013	○		
東濃西部	笠原	363	8673	0.007	0	0.0	0	0.000	0.042	0.014	○	0.007	○
恵那・中津川	中津川	363	8677	0.007	0	0.0	0	0.000	0.042	0.017	○	0.008	○
	下呂	363	8673	0.002	0	0.0	0	0.000	0.021	0.007	○	0.003	○
飛騨	高山	364	8693	0.006	0	0.0	0	0.000	0.041	0.018	○	0.007	○
	乗鞍	350	8407	0.001	0	0.0	0	0.000	0.009	0.002	非適用	0.001	非適用
	県平均			0.007								0.007	
	岐阜明德自排	341	8095	0.009	0	0.0	0	0.000	0.050	0.016	○	0.009	○
	大垣自排	363	8677	0.011	0	0.0	0	0.000	0.047	0.021	○	0.011	○
	可児自排	363	8675	0.011	0	0.0	0	0.000	0.042	0.020	○	0.012	○
	土岐自排	363	8674	0.015	0	0.0	0	0.0	0.050	0.027	○	0.017	○

備考) 1 県環境管理課調べ

2 環境基準の長期的評価に適合しているとは、測定時間が年間6,000時間以上あり、日平均値の年間98%値が0.04ppm~0.06ppmゾーン内もしくはゾーン以下であることを示す。

3 県平均に、乗鞍測定局、自動車排出ガス測定局は含まない。